

南花金盆附近に於ける戦斗状況及感想

十時部隊
上等兵長 栄藏



0918

戦闘經過ノ概要

一、五月三日新設道路構築ヲタメ出勤セル宮川小隊（長以下二十一名）ハ十六時十分作業ヲ中止シ磨頭ニ帰還セントシ歸路十七時四十五分南花金部落ニ敵アルヲ発見直ニ地形ヲ利用シ敵ノ退路ヲ断ントシテ交通壕ニ入ラントスルヤ部落南側土壁ニヨリ五六名ノ敵ヨリ急射撃ヲ受ケタラ以テ之ニ應戦ス宮川少尉ハ部下ヲ激勵シテ約一時間對峙シアリシガ敵ハ逐次兵力ヲ増シ交通壕ヲ利用シ進出シ来リ其一ノ部ハ近接シ手榴彈ヲ投擲スルニ至ル

二、十九時十分宮川少尉ハ意ヲ決シ先ヅ部落東南側交通壕ニ據ル須敵ヲ突破スベク壕外ニ躍出テ突撃ヲ敢行スラ時突撃ノ一部成功シタルヲ以テ磨頭ニ殘留セル友軍ニ連絡急報ノ爲長一等兵ヲ急派スラ実

撃平ニ於テ佐々木佐藤(之郎)飯澤伊藤ノ各一等兵ハ
 壯烈ナル戦死ヲナス
 三、部落南側壕外ニテリシ敵ハ小隊ノ突撃ニ依リ部
 落西南角ニ退避セルモ敵ノ主力ハ逐次部落内ヲ攻
 三、反轉シ小隊ノ右翼ヲ包圍ス
 夜暗ニ入ルモ敵ハ射撃ヲ手ヲ緩メズ手榴彈ヲ交ヘテ頑
 強ニ抵抗ス依ッテ小隊長ハ第三回ノ突撃ヲ敢行ス
 四、突撃ニ於テ敵ハ殆ンド四散スルモ一部ハ尚執拗ニ
 抵抗ス、突撃ニ於テ宮川少尉重傷ヲ受ケ森伍長
 大泉衛生一等兵七井落合青木佐藤(之郎)各一等
 兵ハ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲ
 五、宮川少尉ハ尚モ屈セズ、重傷ノ身ヲ以テ殘存ヲ指揮
 シ二十時十分三度突撃ヲセント立上リシ際米倉一等兵
 續イテ宮川少尉遂ニ散ラレタルヲ以テ若狭上等兵之ニ
 代リテ突撃ヲ敢行亂戦格闘中五十山嵐渡辺一

六、後ソテ金田上等兵ハ佐藤(二郎)一等兵ヲ磨頭ニ連絡
 ノ為急派シ彈藥監視ノタメ小隊ノ後方ニテリタル荒井
 一等兵以下三名ノ下ニ連絡ヲナシ現地ヲ固守シアリ
 七、二十一時二十分頃南花金ヨリ急派セシ長一等ハ磨頭
 ニ到着連絡ヲナシタルモ既ニ磨頭ハ敵ノ包圍陣ニ陥
 リ急援ハ處置ナク當面ノ交戦ニ必死戦鬪ヲ續行
 中ナリ
 八、二十三時頃ニ至リ南花金附近ノ銃聲漸ク衰ヘタルヲ以
 テ信號彈及擲彈筒ヲ射撃シ以テ連絡ヲナセリコト
 ニヨリ南花金附近ニ在リタル敵ハ急援隊ノ来着ト察
 知シ一部ハ南方一部ハ東北方ニ逃走セリシタメ金田上
 等兵ハ附近ヲ搜索スルモ生存者ナク夜暗ニシテ戦死者
 一收容モ出来得ズ磨頭ニ帰還ス

本人ノ勇戦奮闘ノ状況

昭和十五年四月以来水原部隊之支隊東京隊宮川
小隊ニ屬シ冀中地區討伐ニ從事シ其ノ分散配置ト
ナルマ磨頭ニ在リテ警備ニ任シタリ偶々五月三日磨
頭及東鹿間ノ警備道路構築(計画)ノ爲メ宮川少
尉以下二十名ノ中ニアリテ現地ニ臨ミ中隊長ト張義屯
ニ於テ所要ノ連絡ヲ遂ゲ帰還ノ途次南花盆ニ至ルマ突
如約七〇ノ敵ノ激撃ヲ受ケ直チニ應戦シ隊長以下勇
戦奮闘ヲ續クルト實ニ数時間此ノ間数次ニ互リ群敵
ニ向シ全員必死ノ突撃ヲ及西復シ遂次敵包圍陣ノ一角
ヲ壓倒シツマアリシモ衆寡殊ニ敵セズ我損傷漸ク多ク
此時小隊長亦一弾ニ傷キ同時磨頭方面ニ在リテモ激烈
ナル銃聲ヲ耳ニセリ當時恰モ故障ノ爲メ使用不能ニ陥
リアリシ輕機關銃彈藥手ヲリシ長一等兵ハ宮川少尉ヨリ
特ニ磨頭残留分隊ニ連絡スベキヲ命ゼラレタリ一等兵ハ

一等兵ハ敵ノ重圍中ニアリテ使命ノ遂行ノ甚ク疑ハシキモノ
 アリシモ決然必死ヲ期シ勇躍シテ起テ兩手ニ短劍ヲ振ヒ
 群敵中ニ突入其刃下ニ忽ケ教人ヲ屠リ更ニ獅子奮
 迅遂ニ敵ノ銃ヲ奪ヒ更ニ之ヲ振ツテ敵ヲ斃シ敵線ヲ突
 破シ次テ凡有困難ト戦ヒツテ磨頭ニ帰還セリ然レトモ
 磨頭モ亦未ダ敵重圍ノ中ニアリ一等兵八百方工夫ヲ運ラシ
 遂ニ敵包圍ノ間隙ヲ看破者入シ無事急テ磨頭殘留
 分隊ニ報ジ以テ北土路口中隊主力ノ出勤ヲ迅速ナラシム
 ルヲ得タリ

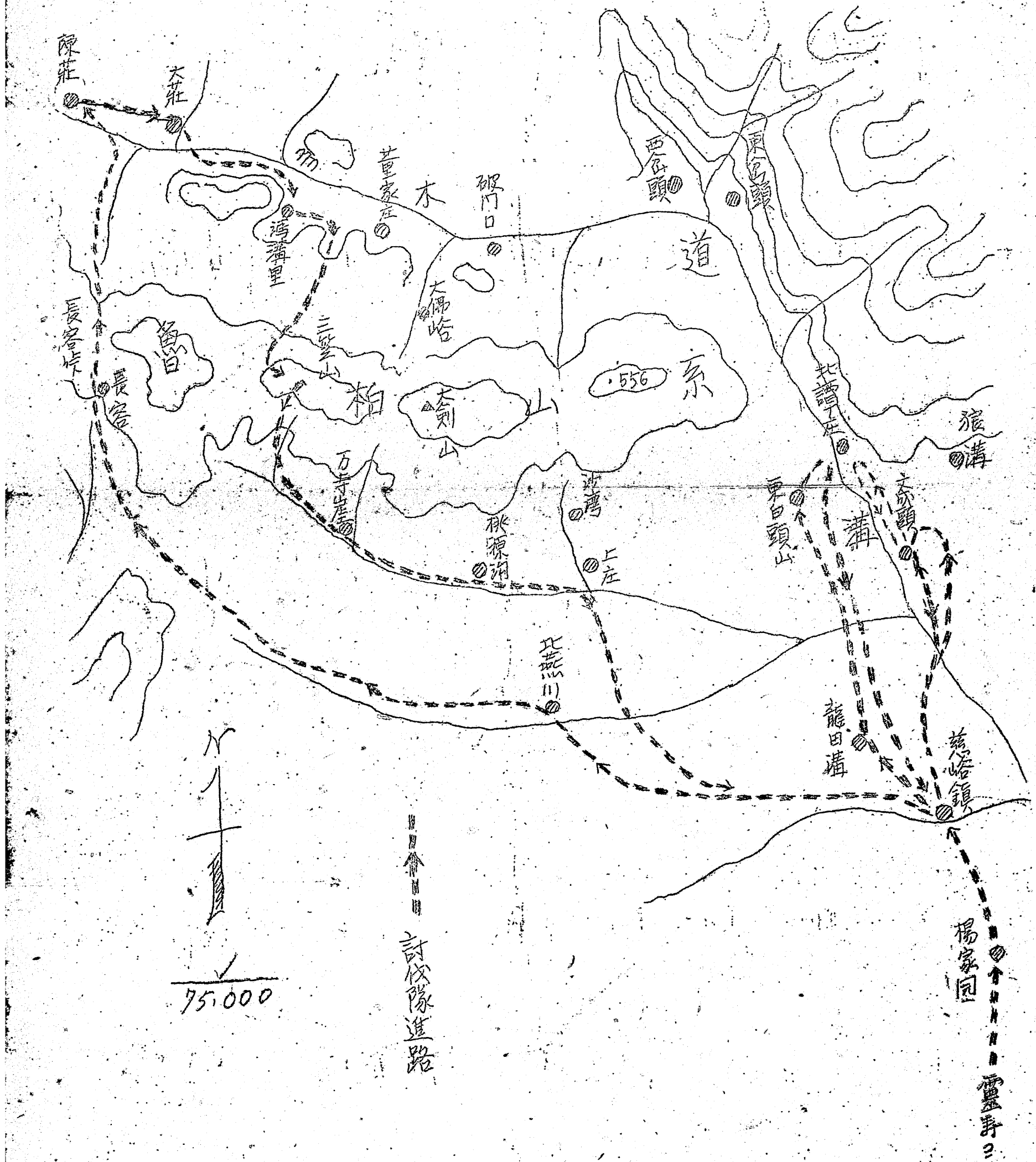
長上等兵感想

第一回、突撃ニ際シ宮川隊長殿ハ極メテ冷静
ニ覚悟定マレルヤト聞キタリ一同其ノ最
前ナルニ身緊マリ無言ノ中ニ領クヤ「突撃ニ進
ム號令一下一齊ニ突入ス此ノ時全ク匪賊輩ノ
彈丸ハ決シテ當ルモノニアラストノ信念ニ満チ満チ
リ此ノ突撃ニヨリ怯ム敵ノ隙ヲ窺ヒ命ニ依リ漸ク
包圍ヲ脱出シ磨頭ニ連絡ノ爲ニ馳ケ出シタル時ハ
全ク夢中ナリ磨頭ニ到着シタルニ此處モ又數百
ノ敵ノ包圍ヲ受ケ激戦ノ最中ナリシ爲アラユル苦心

後漸ク連絡ハトレルモ如何共スル能ハサリシハ實ニ無
念ニシテ隊長殿以下多ク戰友ハ皆斃レ自分ノミハ
生残りシハ甚ク不思議ニ堪ハサルト同時ニ共ニ奮戰
陣没セシ戰友ニ對シ申譯ナキ感ニ打タルノミ

0925

田中討伐隊行動要圖



0926

生勤務ト云フモノカ存在スルモノテハナク兩者ハ全ク不可分ノモノ
デアル以上當然ノコトデアツテ即チ戰鬥部隊カ敵ト激戦ヲ交
ヘ非常ナル苦境ヲ克服シ極ナテ善戦シタカ故ニ救護班ノ
活動モ亦從ツテ大キカッタテアルコレハ明白スギル程明白
ナコトアルカ我々衛生部員ハ常ニコレノ解リ切ツタコトヲ常ニ充
分心裡ニ銘記シテ置カサレハナラナイト思フ

此討伐ヲ得テ戰鬥衛生勤務ニ関スル細部ノ感想或ハ當
時未ク試験時代ニアツタ旅團救護班ノ編成裝備運用等
ニ関スル所見ハ一般的テハナイシ茲ニ述ヘルコトハソノ主旨ヲモナ
イ事省略スルトシテコレハ自己ノ不明ヲ暴スコトニハナルカ自カノ
實シイ然モ失敗ノ經驗カ他山ノ石トモナレハ空外ノ幸ト思ヒ
省ミテ今日尚遺憾トスル重ナ上矣ヲ次ニ述ヘテ見ル
ハ各時期ニ於テソノ時ノ全般ノ状況並ニ次ニ取ラウトスル討伐
隊ノ企圖ヲ其都度知悉シテ置ク必要カアツタコト

コトハ救護班ノ如ク又殊ニソレカ患者收容所等ヲ開設

0928

シテ居ル場合ノ如ク次ノ新シイ行動ニ移ルテニ相当ノ準備ヲ要スルトキハ殊ニ必要ニアツタ比莫進ンテ下ヨリ連絡ヲ取リ上級指揮官ニ訊シコレヲ知ラフトスル着意ニ欠ケル所カアツタト思フ

又コレト同時ニ命令ハ何時ノ場合ニモ懇切ニ下サレル必要カアル即チ作戰要務令ニ示サレテアル敵狀友軍ノ情況指揮官ノ企圖

各隊ニ至ヘル任務等ノ各條項ハタトモ要旨ヲ口達サレル場合ニモ常

ニ具備シテ居ル必要カアル之ハ困難ナ狀況ノ下ニ在レハ在ル程必要ニアツテ又困難ナ狀況ニ在ル程下級ノ者ニ對シテ又徹底スル

必要カアル

2 戰鬥間ハ常ニ次ニ起サル可キ新シイ行動ニ對シテ充分備ヘテアル事カ必要テアル之ハ前條ト關聯シタコトテアルカ三笠山ニ登ル際ニ應用擔架又ハ其ノ材料ヲ準備シナカツタリ式ハ一地莫ニ長ク停止シテ患者ノ處置トカ收容ノミヲマツテ居ル時ニ次ノ輸送ト云フ新シイ行動ニ移ル時ノ準備ヲ出来テ居ラス本營準備ヲスルニ當リ運搬

人員整備サレテ居ナイコトヲ察見シタリシタヨウナコトナル

3 自己ノ任務上ノ地位ニ関スル自覚ニ於テ欠ケル所カアツタコト

慈峪鎮カラ陳莊ニ向ヒ出張シテカラ以後ハ隊附医官モ衛生下

士官モ参加シテ居ナカッタテ討伐隊全體ノ衛生勤務ニ関シテハ

当然自分ヲ責任ヲ負フ可キ地位ニ在ッタソノ意味ニ於テモ参加

シタ隊附衛生兵ヲモ勤務ニ関シテハ掌握シテ置ク可キカ当然テ

アツタカ之着意ニ欠ケル所カアツタ

以エカ重ナルモノテアルカ此等ノ為ニ種々遺憾ナコトカ澤山生シタ

事ハ既述ノ通りナル

次ニ此討伐ハ自分ニ取ツテ最初ニ参加シテ戦キテアツテ謂ハ初

陣デアツタ軍医豫備員出身トシテモ又軍医トシテモ充

分ナ教育モ訓練モ受ケナカッタ一軍医カ初

メテノ戦斗ニ参加シ敵陣ノ下ヲ潛ツテ得テ網ノ個人的大感想
ヲ述ヘテ覽ルト

1. 必勝ノ信念

非常ナ苦境ニ立ツテ戦斗シ且ツ惨烈ナ戦況ノ中ニ在ツテ
尚皇軍ノ將兵カ必勝ノ信念ヲ堅持シテ戦フ事トハ初メ
テノ経験デアル莫カハ余ク想像以テモカアリタ

2. 皇軍傳統ノ白兵戦ノ威力

恐ラク此戦斗ニ参加シタ總テノ將兵ハ己ヲ痛切ニ感シタ
事ト鬼ク皇軍ノ白兵戦ノ前ハ如何志頑敵モ
全ク無カテアツタ從ツテ突撃ノ可能ナ距離迄敵ニ接
近ス事トサヘ出来レハ勝負ハ自今決シタモ同席テマル
殊ニ夜間ニ於テハ如何志機關銃ノ掃射モ手榴弾モ殆ト
効カナイニ比シ白兵ヲフルツテ敵ニ殺倒スル突撃ノ効果
ハ常ニ決定的デアリタ

3. 敵ニ対スル感情

我々ハ小學校以來今日ニ到ル迄アラズル機会ヲ通シテ博
愛トカフ人類愛トカ云フ美德或ハ美ヲイ感情ヲ幾
度トナリ南ヲシテ来タ然シテ下ラシハ平和ナ世界ノ客問テオ茶
ヲ飲ニテ居ル時ハ感情テアテ戰場テ敵彈ノ真只中ニテ
ノ感情ハ決シテオイト思フ

又我々ハ物ノ本ニテ勝者ノ悲哀或ハ將軍ノ哀愁ト云フ
一ツノ感情ヲ讀ミ成程サウ言フトモアラウカト或程度
理解シ得タヨウナ氣モシタトカアル、此言葉ハ引用サレ場
合ニヨツテ多少ノノ意味カ違フヨウナル或時ハ例ハハ
アレキサシカトカナホレオントカ成吉思汗等ノ如ク所謂
籠ヲ得テ蜀ヲ望ム底ノ非常ニ征服欲ニ燃テ一史士ノ英
雄等カ征服ノエニ征服ヲ重テモハヤ征服スヘキ対象ヲ
失フタ場合ノ満々足り過キタ時感情ヲ表現シタ場合ト

0932

戦勝ノ將軍カ敵ナカラ善戦ニテ殪レタ者ヤ戦勝ノ後ハ
必ス存在スル戦ニ殪レタ命下ノエラ思ツテ唯戦勝ノ喜ニ
ニ酔フエトカ出来ナイ、感慨ヲ表現シタ場合トカアルヨウテ
アル、自分違ハ異ノ小サイ故モアラウカ此様ニ美シイ感情
ハ起ラナカッタ、今迄善戦ニテ居タ者カ續々ト殪サレル
ノヲ目前ニ見縮帯ヲエヨウト馳寄ツタ兵カ自分カ鬼
ヲ「軍醫殿口惜シイ」ト叫フヲ南ノ時ニ何トシテモ此様ナ
美徳ノ敵ヲ哀シム感情モ無ッタ何カ齒ヲギリク「ト喰ヒシ
バリカリク」トエヨリ搔キ度イヨウナ衝動ニ馳ラレル程敵ニ
対シテ押ハ難イ憤ト敵ニ憎悪ヲ感シタ
然レ此ノ戦場テノ敵ニ対スル憤リト憎悪ノ感情ハ最モ人間
的ノ最モ素朴ナ感情テハナイカト思フ然モ容問テノ博
愛トカノ人類愛トカ言フ感情ト結局ハ同シモノハナイカ
トモ思フ或ハ少クモ西方同シ所カラ發スル感情テアラ

ウト恩ヲノテア

(昭和五、七、一七記)

0934